

対談

# 伝統と新しさ 心地よさを感じる 豊かなまち板橋

常識、良識、美意識をベースに「あつたらいいな」を形にする

**区長** 水戸岡さんの斬新であたかいデザインは、多くの人を感動させ、世界的にも高い評価を受けていますね。どのようなことを考えながらデザインを生み出してきたのですか？

**水戸岡** 昔から日本にある長い歴史の中の知恵、形、色、素材などをうまく使いたいという意識があり、そこに最先端のシステムを合わせていく。こうして新しく懐かしいもの、利用者が使って心地よいと思えるものを作りたと思っています。心地よい空間をつくれれば、人間はリラックスして笑顔になり、豊かな気持ちになる。そういう時間と場所と道具をつくるのが、われわれデザイナーの仕事だと思っています。

**区長** 展覧会で拝見した、魚、動物、植物のポスターのリアルな表情と鮮やかな色づかいに感動しました。  
**水戸岡** 描く対象の美しい瞬間を

工業デザイナーとして活躍し、当記念誌のデザインを手掛られた水戸岡鋭治さんをお迎えして、坂本区長と対談を行いました。デザイン、まちづくり、人材育成や、板橋区の魅力の創出などについて二人の思いを紹介します。



区長 企業が現場を大事にしている、

## サービスを提供する上で重要なのは「人」の思い

**区長** 昨年、九州新幹線を利用しました。水戸岡さんの素晴らしいデザインを体感したことに加え、乗務員の方のサービス精神あふれる迅速な対応から仕事に対する誇りが伝わりました。



**水戸岡** 車両の色、形、素材、外観も大事ですが、最も大切なのはサービスですね。目配り、気配り、心配りにスピード、笑顔、これが大切です。JR九州では、現場の社員が、トップの心意気をお客様に伝えるという意識が高いのです。

現場は一期一会を大切に柔軟に対応している。日々の対応の中で、いかに感動を与えるかということに十分に体現されていました。

**水戸岡さん** は、人材育成についてどのような思いで取り組んでいますか？

**水戸岡 総** 合的で創造的な視点で、誠心誠意フェアプレイをしていくことをスタッフにも伝えていくつもりです。

手間暇をかけることを惜しまない。体力、気力、知力でどんな困難も乗り越えられると思っています。それをどうやって育んでいくかという、日々の研鑽しかないのです。



EIJI MITOOKA

成功し、ほめられると感動し、充実感につながり、更にその上をめざしていく。  
成功体験をすると、何かを感じ、それを次の世代に教えていく。みんなが、充実感をもてる仕事の仕方をしていきたいと思っています。

**区長** 私は「あたたかい人づくり」「元気なまちづくり」「安心・安全」の3つのナンバーワンをめざし、区政経営を進めています。中でも「人づくり」が最も重要だと思ひ、最初に挙げています。区内には、現場を支える「人」を大切にしている企業が数多くあり、成果につながっています。

## 次代を担う子どもたちのために正しい選択をしたい

**区長** 公共のサインのあり方について、難しさを感じています。例えば公園の看板には、キャッチボール禁止とか、ごみ捨て禁止など、禁止の看板が数多くあります。禁止の表現を変えたいと思う反面、ルールが守れない人もいますので、そこが難しいところです。

**水戸岡** 公共という教育は、本来は、家庭や地域で行うものです。看板がなくても、キャッチボールをし



**区長** いい話ですね。公園をつくる時に、樹種と組み合わせを誤ると数十年かけて木の成長が止まってしまい、そうなると森は枯れていく。これらを考慮して植樹し、100年以上経った現在も循環できている天然のような人工の森がある。まちづくりも同じことで、100年あるいは、もっと無限に都市は成長することが

たら、まわりのおとなが注意をすればいい。人の気配りがなくなると、看板に変わっていった。子どもが守れないのは、私たちがおとなの責任なんです。仕事の意義を問われますが、最近、次の世代を担う子どもたちのためという思いが強くなりました。若いときは、美しいデザインや、売れるデザインを志したのですが、今は、可能な限りわかりやすく使いやすい、安全で安心できるデザインを追求しています。今だけを考えて出す答えず、100年後を考えた場合の答えは違うと思います。そういう意味で、手間暇がかかることも正しい選択をしたいと思っています。



## 伝統をもとに新しい文化を重ねてオンリーワンの魅力を創出

**区長** 今年は板橋区制施行80周年です。板橋区の伝統や文化、産業、自然など、その素晴らしさを区の内外に積極的に発信していきたいと思っています。今回は、記念誌と板橋区のロゴデザインを水戸岡さんにお願ひし、板橋区の魅力を新しい視点から表現していただきました。

**水戸岡** 板橋区には、長い歴史に培われた伝統と文化がある一方、時代の先端をいく産業技術があり、古いものと新しいものが複雑に絡んだ元気で多様性のあるまち、という印象をもっています。記念誌では、こうした特色をふまえ、板橋区が過去・現在・未来が美しく融合した魅力的なまちであることを表現してみました。

**区長** 今後10年20年先に向けて、板橋区がさらに発展し、発信力を高めていくために、何かアドバイスはありますか？

感じがあり、やり方次第では面白くなると思います。例えば、今年、まちづくり計画を作り、それをデザイン化し、皆さんに見ていただき、意見をいただく。伝統をもとに新しい考え方を重ねて、板橋の文化と経済としての景観をつくっていくとオンリーワンの魅力が創出され、美しく、楽しく、上品なまちが生まれると思います。

**区長** 魅力的なブランドデザインをまとめていく上で、公共コミュニケーション空間など、よい都市環境をつくるためのキーワードはありますか？

**水戸岡** 心と体で本当に心地良いまちがどのようなまちか？個人は質素に公共は豊かに、とか、やっぱり「心」がキーワードになる。豊かなコミュニケーションが生まれる豊かなまちが、どこまでつくれるかが重要ですね。

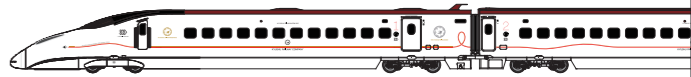
**区長** 私たちには、先人たちが築いて来られた「伝統」「文化」「地域の絆」など、「豊かな板橋」を未来へ引き継いでいく責任があります。今後、区民のみなさんと力を合わせて、豊かさを更に実感できるまちづくりを進めていきます。



TAKESHI SAKAMOTO

坂本 健 (さかもと たけし) 区長

平成19年に板橋区長に就任し、現在2期目。板橋区が「あたたかい人づくり」「元気なまちづくり」「安心・安全」において、東京で一番となることをめざし、区政経営にとりくむ。「もてなしの心」による区政を推進している。



水戸岡 鋭治 (みとおか えいじ) さん

JR九州の「九州新幹線」など鉄道車両や、バス、船、駅舎などのデザインを数多く手掛け、「交通文化賞」「毎日デザイン賞」など鉄道デザインにおける数々の賞を受賞。またこれまでの業績に対して「第59回菊池寛賞」「平成23年度区民文化栄誉賞」を受賞した。(中丸町在住)